



鷺浦コミュニティセンターだより

発行
鷺浦コミュニティセンター
電話/FAX: 0848-87-5004
Eメール: sagiurac@mail.mcat.ne.jp

新年のごあいさつ

鷺浦コミュニティセンター運営委員長



河野 貢



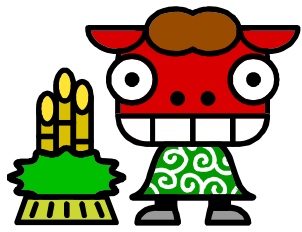
明けましておめでとございます。昨年、コミセンでは絵画・体操・料理・詩吟講座それぞれに、特色ある研鑽を積まれました。その一つ、詩吟講座は十月、愛峰流六十周年祝賀会で百余名の一員として吟じ同好の方々から多くの刺激を受けたようでした。今年も各講座のさらなる充実を期待します。

同時にトライアスロン・元氣さぎしまの事務局、さらには活性化の拠点としてコミセンは日々多忙です。

昨年佐木島は様々な取り組みにより「健康と癒し」のスポットとして新聞・テレビによく取り上げられました。

訪れる人、定住者にとって「健康と癒し」は魅力的でしょう。

来島者にとって島内一周の道路と海、



温暖なこの島は「癒し」の地となるのは確かでしょう、がしかし、それは一時のこと、空気になれるにつれ、心に響くものが薄れてくるのでは？。ここからが問題で、解決は難しい！。全戸に配布された活性化計画では、いろいろな角度から現状分析がなされました。これを基に、一つのアイデア、一人の行い、島民全てのおもてなしが来島者の心に響けば、おのずと活性化への道が開けるのではと思います。人材こそ資源。自己啓発のために、今年もコミセンをよろしく御願い致します。

鷺浦町内会長代行 平木裕士



明けましておめでとございます。ご家族おそろいで良い年をお迎えの事とお喜び申しあげます。昨年の春に向田区、須ノ上区が地域防災組織に加入し、町内三地区が加入しました。防災に向けて足並みをそろえることとなりました。

近年地震、豪雨と以前は「何十年に一度」と言われた災害が度々おこっています。八月の広島土砂災害では多くの方の命が失われており、地球温暖化の影響かも知れませんが災害は「忘れない頃」にも発生する昨今となりました。

当町内も少子高齢化で人口減少は続きますが、いざと言う時には隣近所の助け合いが一番大切になります。

今春には鷺地区に「みなと茶屋」がオープン予定です。地域の皆様や島を訪れる方々の食事の提供、コミュニケー

ションの場、サロンとして活用される予定です。又、町民の皆様にも御支援の程お願い致します。

三月二十八日(土)から五月五日(火)迄小佐木島特別絵画展が開催されます。三原市と公益財団法人ポエック里海財団の共催で鷺浦町内会も後援致します。日本画家千住博氏の絵画の特別公開等が開催され、島に文化の風が期待できそうです。多くの皆様の参加をお願いできればと思います。

十月からは十人乗りの普通車による循環バス運行が予定されており、三原市が車両一台を購入し、町内会で運転手、管理者を準備し運行予定です。現行のバスと同じようにご利用下さい。終わりに町民の皆様の御多幸を祈念いたします。



俳句・短歌

散る落葉昔をしのぶ八十路坂
妻がむく渋柿つるし肌寒し
あかんたれ
参道に落ち葉のジュータン風もよう
小春日や港に映える案内板
ぶんか
伴天蓮のオラシヨ聖地に還りたる
銀盤に極北の舞第九かな
一草
久方に亡母の夢にまどろみて
霊界通信会話が出来れば
朝夕に遺影に向い呼んでみる
どこかで声が聞えたような
牡丹

1月町内行事予定

- 1日(木) 元旦祭(歳祝い)
- 2日(金) 新春ロードレース大会 (須ノ上)
- 11日(日) 消防出初式 午前9時〜放水競技に佐木班出場
- 14日(水) 元氣さぎしま協議会
- 18日(日) 第10回市民ビーチボール バレー大会

御大師講

さぎしま八十八か所

スタンプラリー

ふるさと館だより

新春企画

- ・大ひな人形展 一月一日〜四月三日
- ・花展(関渕流) 小谷社中

一月一日〜一月三日



The Japan Journal 2014年11月号

記事概要

記事は、studio-Lの山崎亮さんのインタビューから始まり、佐木島と私たちを結びつけた経緯が語られます。「広島県から地域活性化案件の依頼がstudio-Lにありました。瀬戸内海には多くの島があるのですが、佐木島はその中でも若い人の少ない、高齢化が進んだ島のひとつです」。「(受講生は)東京で暮らしていますが、多くの生徒はいつかは自分たちのふるさとに戻りたいという思いがあります」。「佐木島は東京からだとなんかの距離がありますが、(中略)長く続く新たな取り組みを始めたいと思いました」。

*

そして「ふるさとという最前線」という講座の受講生グループから生まれた、フォトコンテストなどいくつかのプロジェクトが記され、トライアスロン大会に合わせて行われた「佐木島からのポストカード」に携わった松村亮平さんの声が載せられています。

松村さんは準備のため3回島に訪れましたが、離れた場所からの準備はたいへんだったとしながらも、「この企画を行うことで、日本の地域社会はなんて素晴らしいのだろうと実感出来ましたし、人々の暖かさを感じられました」と語っています。

*

それを受け、島で受け入れてくれた方たちのひとりである、ボランティアガイドの引地典子さんご自身の体験が語られます。「今の世の中では、交通も含めてなんでも便利であることばかりが重要視されています。でも私たちは人生の別の側面を楽しめるような人にも是非島に来てほしいと思います」という言葉は印象的です。

山崎さんも冒頭のインタビューでこのように語っています。

「日本の人口が減っていく中で、これ以上建物や公園を作ることは現実的ではない。でも、もしそこに住む人々の生活に根ざした何かが出来れば、どこでもコミュニティ・デザインは行うことが出来ます」。

「昨今の風潮として、行政や官僚機構に依存し過ぎるきらいがあります。私たちはそんな風潮を改め、自分たちの生活を自分たちで成し遂げていくように変えていく必要があると思います。そしてそうするほうが生活はずっと面白いはず」。

佐木島での、ふるさとという最前線6期の活動が、『The Japan Journal(ザ・ジャパン・ジャーナル)』という日本のトレンドを海外に紹介する雑誌に取り上げられました。

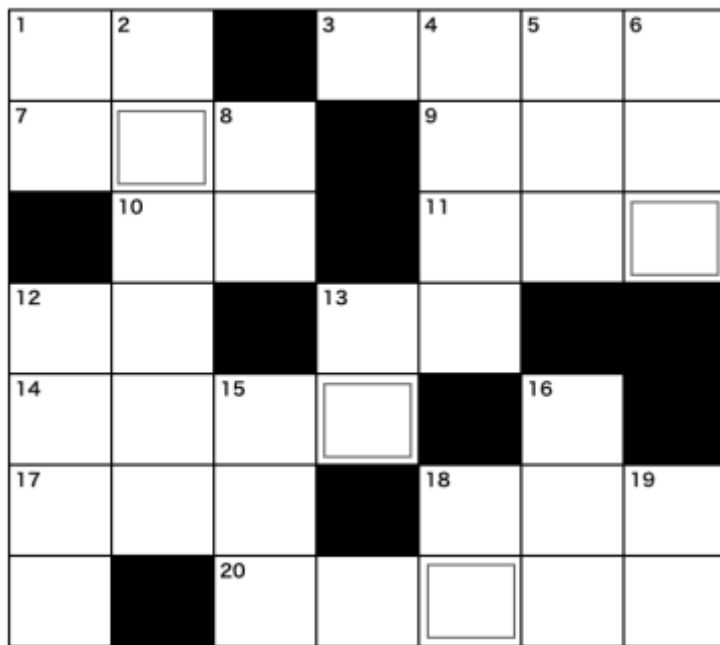
この雑誌は、内閣府が発行し、おもに海外の大学や図書館、JICAなどが定期購読しているもの。

昨年十一月号に、英文で書かれたこの記事は、来日して十七年になる、英国人フリージャーナリストのギャビン・ブレアさんが取材・執筆したもので、ブレアさんが、知人の受講生、月田尚子さんとの会話の中から、佐木島について関心を持ち、月田さんを通してstudio-Lの協力が得られ、佐木島、受講生の取材が行われました。

掲載記事の日本語版が受講生の足立雅史さんの翻訳、同じく奥谷康裕さんのデザインによって作成されました。

国内での入手が限られていることから、日本語記事の概要を掲載します。

取り組みの様子、海外向け雑誌に掲載



製 謹

クロスワードパズル

双鷺洲篇

双鷺洲にちなんだクロスワードパズルを作りました。縦横のカギにしたがってマス目に言葉を入れ下さい。二重マスの文字を並べて、ヒントにふさわしい言葉を作ります。それが答えです。ご覧下さい。ヒント⇒双鷺洲は○○○○愛読書。

ヨコのカギ

- 1 ヨコのカギなのに○○
- 3 お地蔵さんは○○〇〇さん
- 7 tonight は日本語で
- 9 12月に美味しい
- 10 骨を断つには何を切らせる?
- 11 母はマリ、娘はえみり
- 12 佐木島を舞台にした池澤夏樹さんの小説「アトミック・ボックス」で主人公の父の養殖していた魚は?
- 13 お返事は?
- 14 英語はひらがなでは書きません
- 17 おしりのリングが特徴的
- 18 島で人気のグラウンド○○○
- 20 千本桜はどこで

- 1 三原市の名物○○料理
- 2 耕して
- 4 佐木島の最高峰は何山?
- 5 明治○○○は近代日本の出発点
- 6 二日酔いに効く貝類
- 8 「舟をたでる」とは舟底についた藻やカキ殻、虫などを除くため、どうすること?
- 12 須ノ上地区のポニーの名前は何君?
- 13 除虫菊は○○○の一種
- 15 つま先の反対
- 16 島生産の人気ナンバーワンの柑橘
- 18 背中がかゆいときは「ま○○手」を島から島になりに行く?

タテのカギ

はがきに「クロスワードパズルの答え」と書いて解答を記し、あなたの郵便番号、住所、氏名、そして、この欄へのご意見、ご感想、取り上げてもらいたい記事を書いて、〒259-0155 神奈川県足柄上郡中井町松本 1026-17 戸村裕司へお送り下さい。下記のメールでも受け付けます。

応募方法

応募は一人葉書1枚で、1月15日必着でお願いします。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。＜賞品＞3人の方に「島★彩発見! フォトコンテスト in さぎしま」から生まれたフォトブックを正解者の中から抽選で差し上げます。ふるってご応募下さい。お楽しみに。

この欄のお問い合わせ、ご意見ご感想は、東京藝術学舎ふるさとという最前線第6期生、戸村裕司(080-8050-7535、tomurayuji@mac.com)まで是非どうぞ